

会議録（要約）

事務局	<p>みなさんこんにちは。 本日はお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。 これより、海津市まちづくり委員会「第3回自治基本条例策定分科会」を開催させていただきます。 会に先立ちまして、会長より一言ご挨拶をお願いします。</p> <p>（分科会長あいさつ）</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>さて、本日の日程でございますが、前回の続きになります。ワークショップを行いたいと思います。進行は菊本先生にお願いしたいと思います。また、本日は、岐阜県コミュニティ診断士の伊藤善彦様と石垣幸雄様にファシリテーターとしてお手伝いをお願いしております。</p> <p>ワークショップ終了後は、市民ワークショップの開催スケジュール等のご相談をさせていただきたいのと、全体的なスケジュールのご確認もさせていただきたいと思います。</p> <p>終了時刻は15：30でございます。</p> <p>それでは会議の司会を、海津市まちづくり委員会要綱の規定により、古川分科会長にお願いいたします。よろしくをお願いします。</p>
会長	<p>それでは次第に基づき進めさせていただきます。 次第2、「ワークショップ」について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>これから約90分2グループに分かれてワークショップを行いたいと思います。</p> <p>前回の分科会では、総合開発計画の説明が若干長引きましたので、ワークショップはできませんでした。今回は、その続きをさせていただきたいと思います。</p> <p>進行を菊本先生にお願いし、ファシリテーターのお二人にも議論のお手伝いをお願いしたいと思います。会長さん、副会長さんも、それぞれグループに入ってくださいと思います。</p> <p>それでは、菊本先生お願いします。</p>
菊本先生	<p>今日から本格的に自治基本条例を作るにあたって、どういう中身にしていくのか具体的に検討していきたいと思います。今日行いますのは、私たちがどんなまちを目指していきたいかということワークショップで取り込んでいきます。これをやる目的は、自治基本条例には前文があります。前文と言うのは条例の性格と言うか導入文にあたるものになりますので、条例がどんな雰囲気を持ったものなのか、読む人に或いは外に向かって宣言するようなものです。前文は実は、作る時に一番揉める個所でもありますので、どうい</p>

った内容を前文に盛り込むのか、ワークショップの中で出てくる意見を、目指すまちの姿というのが、前文の中に盛り込まれていけばいいなというような期待を持っています。

自治基本条例には10のポイントがあるということが一番初めの会にお話しさせていただきました。今日取り組んでいただくワークショップの中で重要なポイントとしては、①みんなの思いをひとつにまとめるものになっている、②まちづくりの理念が明確になっている、ということです。どんなまちを目指したいのか、そのために誰がどんな関わりをしていくのか、ここを具体的に作っていくのが自治基本条例だということになります。

今日取り組む内容は、一つ目として私たちのまちが現在どんなまちなのか確認する。海津市の良いところ、自慢できるところ、これを強みとして、一方、海津市が他の市町と比べて劣っているところ、改善したほうが良いところ、これを弱みとして挙げていただきたいと思います。その上で、将来どんなまちになって欲しいのか、どんなまちにしていくべきなのかという事を考えていただきたいと思います。そしてそのために誰がどうしていくのかということを具体的に出してみてください。

(ワークショップ)

発表

(グループごとに出された意見を発表し、まとめの意見を述べる。)

Aグループ (別紙A参照)

どんな町にしたいか

A 委 員

1. 自然災害に強い町づくり
2. 住民の民意を集めた町づくり
3. 交通弱者に強い町づくり
4. 後継者が住める環境が整った町
5. 高齢者が住みやすい町
6. 海津市の特産品を活かした町づくり
7. 養老鉄道の有効活用

Bグループ (別紙B参照)

B 委 員

若者の定着、そのためには交通機関の充実、新しい産業を誘致して働き口を確保していかなければなりません。そして、魅力あるまち・誇りあるまち、これは我々が老後もここに住みたいと思えるようなまちを作っていかなければならない、また、何もかも行政におねだりするのではなくて、自分達もやれるところからやって住みよい町を作っていかなければならないという意見がありました。

協働、共生、ずっと住み続けたいまち、というテーマタイトルにしましたが、定着しながら最後までこの地(海津市)に残りたいという思いからこのようになりました。

菊本先生	両方とも住みたい、住み続けたいというテーマになっていました。両グループの発表がありました。質問などあったらお願いします。
C 氏	誰との共存共生ですか。
D 委員	市民・行政、議会すべてです。大人から子供まで全部含めた意味です。
E 委員	住みやすい、住みたい町というのはどういうまちなのか、どのようなイメージなのかを一度この会で考えてみてはどうかと思います。いかがでしょう。
F 委員	地域は、市民と行政と議会で成り立っていると思うので、三者が参加できるテーブルが必要なのではないかと思います。それぞれの知恵を出し合わないと、市民・議会・行政といった壁を取り払わないと良い町にならないのではないかと思います。ですから私はワンテーブルのまちづくりというのを提案したいです。
G 委員	住み続けたくなる町づくりという事ですが、行政は仕事ですからやると思います。でも住民には無関心な人が多いかなと感じます。まず、こちらを振り向かせることが必要なのかなと思いました。
C 氏	策定しようとする条例は、議会を含めるのですか含めないのですか。
事務局	議会を含めるか含めないか、それは当分科会で決めていただく事になります。
菊本先生	<p>両方のグループに共通するテーマとして、住み続けたくなる町・住みたい町、というのがありました。誰にとって住みやすい町なのか。そしてそもそもこの分科会の委員というのは、まちづくりに関心の強い方がお集まりになってみえるのだけでも、市民の中にはそうでない方々の方が多いだろう。そういう方達に、今後どんな働きかけをしていけばいいのか、どうしたら当事者意識をもって参加していただけるのか、今後、条例を作っていく上での課題になるということが、今日のワークショップで見えてきたと思います。</p> <p>そもそもこの分科会で何をやっていくのか、ということが本日のワークショップで提案されたと思っています。この分科会の中で骨子、素案を作っていく中で、市民の方々にどのように働きかけるのか、中身も検討されるのが良いと思います。</p> <p>次回からは、どんな主体がどのような働きかけを、どんな取組をしていくのか、ワークショップをしながら具体的な骨子・素案という形に進んで行くと思います。</p>
会長	ありがとうございました。 続きまして、次第3. 今後のスケジュールについてお願いします。

<p>事務局</p>	<p>先ほどE委員やF委員さんからもご提案がありましたし、本日のワークショップの様子、成果を見ても、みなさんが議論して発言する機会はとても大事なことはないかと思いました。</p> <p>そこで今後の分科会スケジュールについては、当初の計画案では、研修会（総合開発計画・財政・議会）など予定しておりましたが、委員の皆さんの意見交換または議論する機会を大切にしたいと考え、事務局からの提案ですが、今後、条例策定にあたって勉強したい点については、分科会として実施するのではなくて、自主学習会というような形にさせていただいてはどうかと思います。菊本先生におかれましては、大学の講義を持たれながら貴重な時間を来ていただいております。ですから研修的な内容に関しては、委員さんの自発的な参加による勉強会を開催してはどうかと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>また、市民ワークショップについて、地区や世代毎に分けて開催するとか、テーマ毎に分けて開催するとか、いろいろあると思います。また、先ほどの意見交換の中で、多くの方の関心が低いといったご意見も出ておりました。できれば委員の皆さんで市民ワークショップの周知を含め、運営も携わっていただきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>ただいま、事務局から説明がありましたが、ご意見のある方はございませんか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは、今後のスケジュール等については意見を事務局で整理していただくこととしますが、よろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>本日の予定は、以上で終了しました。</p> <p>これで「第3回海津市自治基本条例策定分科会」を閉じさせていただきます。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p> <p>(15:30 終了)</p>